

農林水産政策学 第6講 市場 の失敗4: 情報の非対称性

2016年5月25日

有賀健高

情報の非対称性

- 市場取引における、売り手と買い手の間でもっている情報が異なる状況を経済学では**情報の非対称性**という。
 - 完全競争市場では全ての経済主体が共通の情報を持っていることを仮定している。

情報の非対称性における情報とは？

- コミュニケーションを通じて伝わっていく知識の中で、経済主体間で行われるさまざまな取引において有益な情報となるものをいう。
 - 友人、知人、書籍、テレビ、ラジオ、インターネットなど

情報の非対称性と市場の失敗

- 売り手と買い手の持つ情報が非対称な場合、取引の対象である財の質についての信頼性が得られにくい。
- 財の取引量が効率的な量より少なくなったり、取引自体が成立しなくなったりする。
- 効率的な資源配分でなくなる。

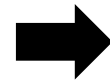


市場の失敗

隠された情報(hidden information)と 隠された行動(hidden action)

隠された情報: 取引開始前に売り手と買い手の間では互いの情報が全て見えているわけではない。

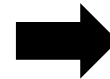
- 契約前の情報の非対称性



逆選択(adverse selection)の問題

隠された行動: 取引開始後、契約通りの行動をとっているかに関する売り手と買い手の情報が全て見えているわけではない。

- 契約後の情報の非対称性

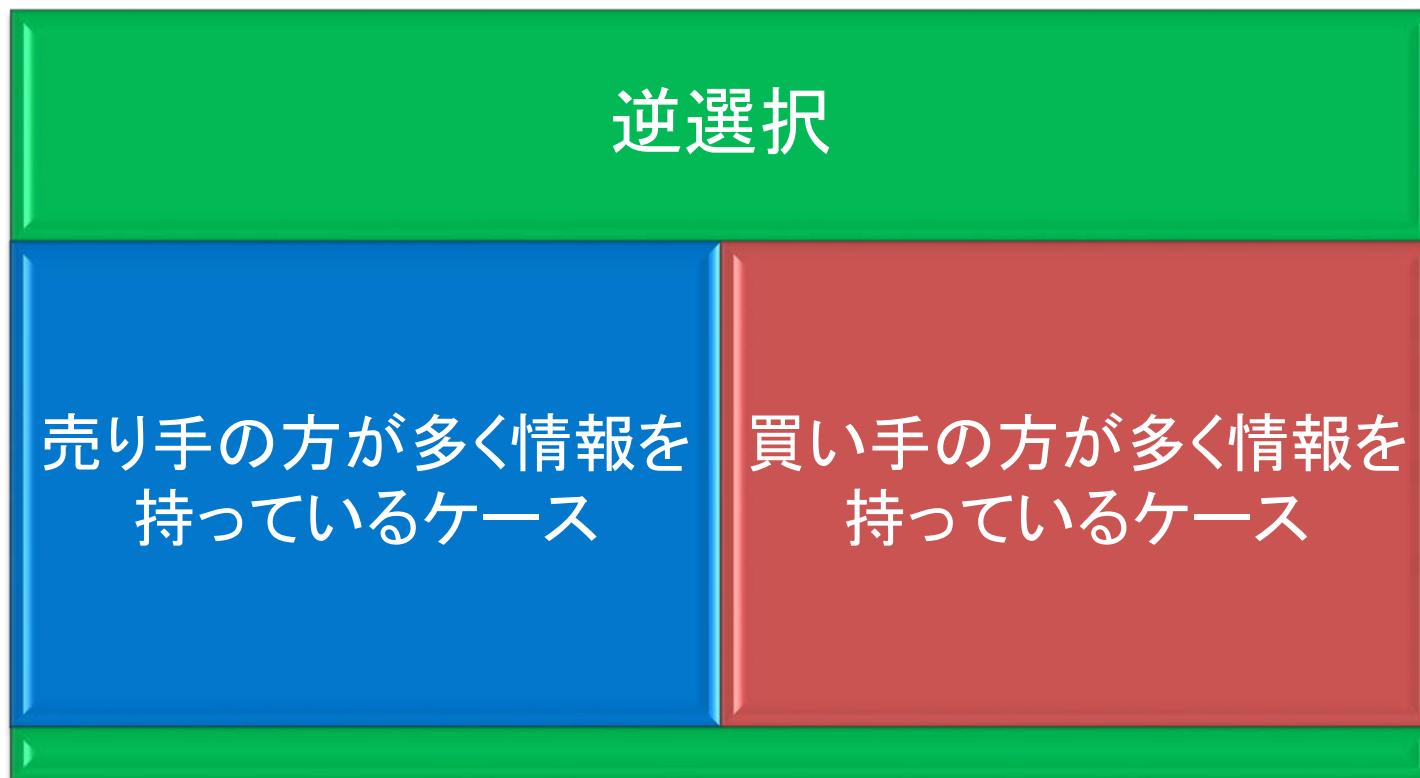


モラルハザード(moral hazard)の問題

逆選択

- 契約前の情報の非対称性が原因で、良質の製品や優良な経済主体が市場から排除され、悪質な製品や悪徳な経済主体だけが市場に残ってしまう現象。
 - 悪いモノが選択されてしまうという意味で“逆”の選択
 - 情報の非対称性があるために市場から有料品が排除され、品質の悪い品ばかりが市場に残ってしまうといった問題。

逆選択の問題が起こるケース



逆選択：売り手の方が情報を多く持っている（買い手が情報不足）場合

- 財に関する情報に関して、売り手の方が多く情報を持っている場合

－例1 レモンの原理

- 中古車市場で外見からは分からない欠陥車（レモン）と優良車（ピーチ）が混在していると、買い手が高い金額で欠陥車を買うことを恐れ、欠陥車に相当する金額しか払わなくなるため、市場に優良車を出す売り手がなくなる。

－例2 食品偽装問題

- 魚沼産100%の米、非遺伝子組換え食品、有機野菜などの食品はラベルでしか判断できない。

逆選択：売り手の方が情報を多く持っている場合の対策

- 情報の開示

- 情報優位の売り手から情報劣位の買い手に情報を発信する(シグナリング)

- シグナリングの例

- 保証を付ける、ブランド、資格、学歴

- 情報劣位の買い手が、情報優位の売り手にいくつかの基準値をベースに、情報を開示させる(スクリーニング)。

- スクリーニングの例

- 試験を受けてもらう、品質保証書を提示してもらう、ラベリング

- 製品に関する定期的な監査

逆選択：買い手の方が情報を多く持っている（売り手が情報不足）場合

- 財に関する情報に関して、買い手の方が多く情報を持っている場合
 - 例1 保険
 - 売り手が被保険者に関する情報をあまり持っていないため、加入者の平均的な危険度の人にあわせた保険料に設定されてしまう。
 - 例2 銀行貸し付け
 - 銀行が借り手に関する情報が不足している場合、高資産、高所得の人にのみ貸し付けを行うようになってしまう。

逆選択：買い手の方が情報を多く持っている場合の対策

- 国民全員に強制的にその財を買わせる（社会保険）。
- 条件の悪い買い手に財を売った売り手に補助金を与える。

モラルハザード

- 経済主体が、取引後に、保険などリスクを軽減できる要素があるために、リスクを軽視して不当な行動を取ることで効率的な資源配分が妨げられる現象をいう。
 - 道徳上の(moral)危険を及ぼす原因(hazard)という意味でモラルハザード。
 - 保険契約などで保険があるために被保険者が事故に対して不注意になり、かえって事故が起きやすくなるといった道徳的に不当な行為が原因で起こる問題。

Moral Hazardの直訳による解釈

- Moral: 道德上の
- Hazard: 危険を引き起こす原因



リスクにはMoral(道德上の)が原因で起こるものだけではなく、建物の建設方法、建物の場所といったPhysical(物理的)なことが原因で起こるものがあるため、もともとはこのphysical hazardに対する用語としてでてきた。

モラルハザードが起こる例：プリンシパル＝エージェント問題

- プリンシパルがある経済活動を実行するために、エージェントにその活動を依頼する状況で、プリンシパルがエージェントの行動を完全に監視できないためにおこる問題
 - プリンシパル(principal): 依頼人⇒情報弱者
 - エージェント(agent): 代理人⇒情報強者
- 例
 - 経営者と労働者、患者と医者、政府と農林水産業者

プリンシパル＝エージェント問題：政府と農業経営者の例

政府

- プリンシパル(principal)(依頼人)
 - 契約：補助金を出す代わりに、米を栽培してもらう依頼を出す。

農業経営者

- エージェント(agent)(代理人)
 - 契約：米を生産する。
 - 補助金があるので米の生産性向上や高付加価値化といった経営努力をしないといったモラルハザードが生じる可能性がある。

モラルハザードの原因

- 契約者間で情報の非対称性があり、保険の例だと保険会社が被保険者の行動を完全に監視することができないため。
 - 雇用契約の例 時間制のバイトで短時間に終わる仕事でもモニタリングができなければ労働者は通常より長い時間をかけて作業を進めてしまう可能性がある。

モラルハザードの回避策

- 当事者を監視(モニタリング)する。

例 労働時間を把握するためのタイムカードの導入、労働者に対して定期的に能力に関する試験を実施する。

- 不当な行為を起こすと損になるようなインセンティブを与える

例 自動車保険などで一定期間事故がなければ保険料を優遇する。

例 給与を上げることで、仕事をさぼって失業することのリスクを大きくする。

農林水産業における情報の非対称性

- 政府と農林水産業者間の情報の非対称性
 - 保護、規制、補助金による逆選択、モラルハザードの問題
- 農林水産業者と消費者との情報の非対称性
 - 食品の質に関する情報格差
 - 食品偽装問題
 - 風評被害